

JR西、無線での速度制御を在来線に導入へ 点検にIoT

日本経済新聞 地域経済

2018年3月23日 2:19 [有料会員限定]

JR西日本は22日、2030年を見据えた新技術の導入方針を発表した。今までよりも緊急時に対応しやすい、無線式の自動列車制御装置を在来線に取り入れる。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」や人工知能（AI）など先端技術を取り入れることで、車両の保守点検の省力化を進め、乗客の利便性を高める。技術面に特化した方針の策定は初めて。

無線式は従来の線路上の自動列車停止装置（ATS）に替わるシステムで、IoT技術を使い、列車同士が接近した場合などに急ブレーキをかける。列車の将来の自動運転を視野に入れた技術として、今後導入時期や区間を検討する。

無線で速度制御
在来線に導入へ
JR西、点検にIoT
JR西日本は22日、2030年を見据えた新技術の導入方針を発表した。今までよりも緊急時に対応しやすい、無線式の自動列車制御装置を在来線に取り入れる。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」や人工知

能（AI）など先端技術を取り入れることで、車両の保守点検の省力化を進め、乗客の利便性を高める。技術面に特化した方針の策定は初めて。
無線式は従来の線路上の自動列車停止装置（ATS）に替わるシステムで、IoT技術を使い、列車同士が接近した場合などに急ブレーキをかける。列車の将来の自動運転を視野に入れた技術として、今後導入時期や区間を検討する。

関連キーワード: インターネット・オブ・シングス JR西日本